

りんごだより

草笛学園 2025年 11月号



朝夕は寒くなりましたが、日中は吹く風や日差しが心地よく感じる季節になりましたね。稲刈りがあったり、赤とんぼが悠々と空を飛んだり、お店には梨やりんごと秋の味覚も並んだり、『秋』を感じる今日この頃です。

とはいえ、急な気候の変化に体調を崩しやすくなりますので、手洗い・うがいで 予防をしつつ、しっかり食べて、たっぷりと睡眠もとって、元気に過ごしていきましょう。



「やりたい思い」と「できること」の間で揺れる

3歳になると、いろんな場面で「お母さん、ミテテネ～」と大人に言います。これには、いくつかの意味が含まれています。

1つ目は「一人でできるようになった自分を認めてもらいたい」「褒めてほしい」という気持ちが強くなってきたからです。2つ目は、「お母さんは手を出さないで見ていてね」という意味が込められています。親から見て手助けしてあげたいくらい危なっかしいことも自分一人ががんばっていることを認めてほしいのです。3つ目は、「お母さん、どこかに行かないで近くで見ていてね」という依存の気持ちも込められています。無視されるのも嫌なのです。この時期は「自立」と「依存」の間で揺れ動いている現われなのです。

この揺れる気持ちは、自分に対する評価にも同じようなことが言えます。2歳児は上手にできていなくてもやったことに満足していましたが、3歳ごろから自分自身のことで「できることーできないこと」がわかりはじめ、次第に「上手ー下手」を気にするようになってきます。「できないこと」がわかりはじめた子どもにとって、「がんばれ、がんばれ」という励ましや、「上手にできた」「一番だね」という評価は、「早く、早く」「もっとうまく、うまく」というように追い立てられる感じが

するのです。また「上手にできなかったらだめだ」という気持ちを持つことが積み重なってしまうと、苦手意識につながってしまいます。大切なことは、子ども自身が「ヤッター！自分でできた！」という気持ちを持てるようにすることです。大人でも子どもと同じですが、指摘をされるよりも褒めてもらえるほうが自分のよい所をぐっと伸ばしたいと思うのです。ぜひ、近くにいる大人が子どものよい面を見て評価してあげてください。でき上がりの結果より、子ども自身が今、目の前の課題にがんばっている過程を褒めてあげましょう。「失敗してもいいよ」「また挑戦しようね」「ここまでよくがんばったね」という褒めことばが、達成感にもつながります。

長崎純子・山本喜久子・山本弥栄子著

『子どもの「困った」を理解する～発達を見通した子育てを～』

< 次回のりんご教室について >

★りんご教室①【12月2日（火）】

『クリスマス製作』をします！



水筒・着替え・100円（材料費）お願いします

★りんご教室②【12月16日（火）】

『クリスマス製作』をします！



水筒・着替え・100円（材料費）お願いします

『参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- * お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- * 参加費は、無料です
（製作とクッキングの際は、材料費として100円いただきます）
- * 水分補給のため、お茶を用意してください（ジュースはお控えください）
- * 兄弟児の参加は、ご遠慮下さい。預け先がない場合は、ご相談下さい
- * ケガ防止のため、事前に必ず爪を切っておいてください